

2025年度 千住学部時間割

科目名称	初等教科教育法(音楽) (1組)
授業コード	BN305
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (music)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	石橋 裕子, 飯泉 祐美子
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	◎3.ディプロマポリシーにある「教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案」するために、中学校・高等学校等で教育経験のある石橋と飯泉とが担当する。 1. 学習指導要領に沿って、音楽を指導する上で必要な事項を領域ごとに理解し、主に低学年を指導できるような基礎的な指導技能を修得することを目的とする。 2. 低学年を指導できるよう、すべての領域の指導方法を習得することを目的とする。 3. 協同学習 (cooperative learning) やグループワークによる講義を経験し、学習指導案立案時に反映することを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	◎中学校・高等学校等で教育経験のある石橋と飯泉とが担当する。 ◎毎時間「単元見通し表」「学修の振り返りシート」等を用いて学修を振り返る。また、配慮の必要な児童への留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する。 ◎全員が指導案を立案し、選ばれた2名が、それぞれ45分の授業を実施する。
到達目標	◎カリキュラムポリシーにある「各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成」するために以下を中心とした目標を設定する。 1 音楽を指導する上で必要な音楽理論等を理解したうえで、児童に音楽を愛好する心情が育つよう、楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現できることを目指す。 2 低学年の授業が行えるよう、領域ごとの様々な指導方法を理解することを目指す。 3. 地道な練習や事前課題を通じて、指導能力向上のための新たな課題を見つける。
計画・内容	◎毎時間パワーポイントとワークシート等を使用し、協同学習(cooperative learning)等で学習を進める。協同学習での学びは「主体的・対話的で深い学び」で指導できるよう、いくつかのストラクチャ(技法)を用いて学ぶ。 第1回：オリエンテーション(元高校等教員石橋・元中学校教員飯泉) ①担当教員の自己紹介を聞く ②協同学習 (cooperative learning) による講義の進め方を知る ③音楽科の目標を知る <実施するストラクチャ> 交互発言・交互読み・round robin 第2回：音楽科の指導内容(表現・鑑賞・共通事項)を理解する(石橋) <実施するストラクチャ> 交互発言・mix pair share 第3回：音楽科の学習指導計画について・評価についてを理解する(石橋) <実施するストラクチャ> おでかけバズ(特派員)・round robin 第4回：歌唱の学習と指導について知る(石橋) <実施するストラクチャ> 交互発言・round robin 第5回：歌唱の授業づくりに関する討論をする(石橋) <実施するストラクチャ> mix pair share 第6回：器楽の学習と指導の方法・授業づくりを知る(飯泉) 第7回：音楽づくりの学習と指導を知る(飯泉)

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第8回：音楽づくりの授業に関する討論をする（飯泉） 第9回：鑑賞の学習と指導を知る（飯泉） 第10回：鑑賞の授業づくりに関する討論をする（飯泉） 第11回：児童の音楽的発達と教育実践上の実際と課題を知る（石橋） ＜実施するストラクチャ＞交互発言・round robin・mix pair share 第12回：指導案作成上の留意点を知り指導案作成の実際を理解する（石橋） ＜実施するストラクチャ＞交互発言・交互読み 第13回：和楽器の指導について考察する（飯泉・和楽器奏者である外部講師） 第14回：模擬授業「A表現領域」と研究協議1（石橋・飯泉） ＜実施するストラクチャ＞round robin 第15回：模擬授業「B鑑賞領域」と研究協議2（石橋・飯泉） ＜実施するストラクチャ＞round robin
授業の進め方	1. 授業は教科書、パワーポイント、ワークシート等を併用して展開する。 2. 石橋の授業は協同学習（cooperative learning）で、飯泉の授業はグループワークで行う。 3. 石橋の授業では、協同学習のいくつかのストラクチャ（技法）を用いて学ぶ。 4. 事前学習を行っていることを前提に講義を展開する。 5. パワーポイントのハンドアウトは、授業終了時に配布する。 6. 講義と演習とで授業を展開する
能動的な学びの実施	◎毎時間教科書、パワーポイント、ワークシート等を使用し、ワークシートは復習に活用する。 ◎協同学習では、単元見通し表（ルーブリック）に毎時間の学びを記録し、学修予定と学んだこと等を視覚的に確認する。
授業時間外の学修	1. 毎時間配布される次時のワークシートを予習（事前学習）とし、さらに本時で記入したワークシートを理解できるまで取り組むことを復習とする（合計57時間程度） 2. 第13回終了後に学習指導案を立案する（2時間程度） 3. 返却された学習指導案を修正する（1時間程度）
教科書・参考書	＜教科書＞ 「しょうがくせいのおんがく1」教育芸術社 「小学生の音楽2」教育芸術社 「小学生の音楽3」教育芸術社 「小学校学習指導要領解説 音楽編」文部科学省 「ソプラノリコーダー」（バロック式・ジャーマン式どちらでもよい） ＜[参考書]＞ 「最新 初等科音楽教育法」初等科音楽教育研究会 音楽之友社
成績評価方法と基準	課題20%、授業での学びの評価（ルーブリック）30%、期末試験50%等を総合して評価する。
課題等に対するフィードバック	1. 毎時間回収するルーブリックにはコメントを記し、次時に返却する。 2. 学習指導案は添削して返却する。
オフィスアワー	Campusquareを参照
留意事項	1. 事前に、免許必修科目である「音楽基礎」、同選択科目である「器楽」「声楽」を履修していることが望ましい。 3. 理由のない遅刻や早退は欠席扱いとする。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評	①授業の進め方 1. 学内インフラを使用した課題学修を中心とした授業を、教科書とともにパワーポイントやワークシート等を併用して展開する。

2025年度 千住学部時間割

評価方法と基準」	2.事前学習を行っていることを前提に授業を展開する。 3.パワーポイントは音声をつけて配信する。 ②成績評価方法 1.課題及び振り返りシート等の提出物50%、期末試験50%、等を総合して評価する。 2.課題が期限に遅れることなく提出されることを出席の原則とする。
----------	--

2025年度 千住学部時間割

科目名称	初等教科教育法(生活) (1組)
授業コード	BN271
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Life Environment Studies)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この授業では、生活科の創設からの変遷、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する機能について理解する。そして、生活科の意義を認識するとともに、小学校学習指導要領を基に、生活科の目標、生活科で育成する資質・能力、内容、指導方法について理解する。そのうえで、学習指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行う。生活科の授業設計の方法を身に付け、お互いの学習指導案・模擬授業を基にしたディスカッションをととして授業実践の工夫を考察していく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「生活」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	カリキュラムポリシーにある「各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成」するために、生活科の教科としての意義や、生活科の目標・内容・指導方法などについての基礎的な知識を習得するとともに、実際の生活科学習のあり方について、学習指導計画や学習指導案などの作成を通して具体的な授業場面を想定した授業設計を検討・提案する能力を培う。
計画・内容	第1回 オリエンテーション・三つの自立への基礎 第2回 生活科の目標と教育内容の変遷－生活科創設の背景・意義－ 第3回 生活科の内容構成と指導計画作成の配慮事項 第4回 スタートカリキュラムの編成 第5回 指導計画作成の実際と単元の構成 第6回 授業設計と学習指導案の作成－内容の取扱いと学習指導の進め方－ 第7回 教材教具の作成とコンピュータや情報通信ネットワークの活用 第8回 学習指導案の検討－学習評価の規準と評価方法－ 第9回 模擬授業の実施・参観と協議（学校、家庭及び地域の生活に関する内容〔1年〕） 第10回 模擬授業の実施・参観と協議（学校、家庭及び地域の生活に関する内容〔2年〕） 第11回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〔1年〕） 第12回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〔2年〕） 第13回 模擬授業の実施・参観と協議（自分自身の生活や成長に関する内容）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第14回 生活科と他の教科等との横断的な学習ーカリキュラム・マネジメントの視点からー 第15回 指導計画と授業の工夫改善
授業の進め方	講義、演習を行う。 模擬授業の回には、学生が模擬授業を行い、模擬授業後に授業内容・指導方法について協議する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、重要な点をまとめる。模擬授業の準備や模擬授業実施の回には、指導案の作成や、指導案の工夫・改善を検討して修正案を作成すること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説生活編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 新編 新しい生活上・下，東京書籍，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、レポート・学習指導案の作成 25%、模擬授業の発表 20%、課題論述試験 25%
課題等に対するフィードバック	レポート・学習指導案の作成のフィードバックは次回以降の授業・オフィスアワーにコメント・返却する。 模擬授業の発表のフィードバックは授業内に口頭で行う。 課題論述試験のフィードバックはオフィスアワーに行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。
留意事項	・教材作成に使用する文具等は各自用意すること。 ・教科書（小学校学習指導要領解説生活編）の購入が困難な場合には、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編」（文部科学省ホームページ）のPDFフィルを取得して、学修に活用すること。 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②課題論述試験については、レポート課題に振り替え、レポート課題の評価を課題論述試験（25%）の評価に充てる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	初等教科教育法(家庭) (1組)
授業コード	BN233
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Home economics)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	家庭科は、社会の変化とともに、その意義や目標、教育内容を大きく変容してきた教科である。この授業では、多様化している家庭生活や児童の日常生活、家庭科の教育内容の変遷を理解する。そして、家庭科の意義を認識するとともに、小学校学習指導要領を基に、家庭科の目標、家庭科で育成する資質・能力、内容、指導方法について理解する。そのうえで、学習指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行う。家庭科の授業設計の方法を身に付け、お互いの学習指導案・模擬授業を基にしたディスカッションをとおして授業実践の工夫を考察していく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「家庭」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	カリキュラムポリシーにある「各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成」するために、家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標・内容・指導方法などについての基礎的な知識を習得するとともに、実際の家庭科学習のあり方について、学習指導計画や学習指導案などの作成を通して具体的な授業場面を想定した授業設計を検討・提案する能力を培う。
計画・内容	第1回 オリエンテーション・子どもの発達をささえる家庭科 第2回 家庭科の目標と教育内容の変遷ー生活科学領域との関係をもとにー 第3回 家庭科の内容構成と指導計画作成の配慮事項 第4回 指導計画作成の実際と題材の構成 第5回 授業設計と学習指導案の作成ー内容の取扱いと指導上の配慮事項ー 第6回 コンピュータや情報通信ネットワークの活用と教材教具の作成 第7回 学習指導案の検討ー学習評価の規準と評価方法ー 第8回 内容A家族・家庭生活 模擬授業の実施・参観と協議 第9回 内容B衣食住の生活（食生活） 模擬授業の実施・参観と協議 第10回 内容B衣食住の生活（衣生活） 模擬授業の実施・参観と協議 第11回 内容B衣食住の生活（住生活） 模擬授業の実施・参観と協議 第12回 内容C消費生活・環境 模擬授業の実施・参観と協議 第13回 家庭科と他の教科等との横断的な学習ーカリキュラム・マネジメントの視点からー

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第14回 家庭科授業におけるICTを活用したプログラミング的思考の育成 第15回 指導計画と授業の工夫改善
授業の進め方	講義、演習を行う。 模擬授業の回には、学生が模擬授業を行い、模擬授業後に授業内容・指導方法について協議する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、重要な点をまとめる。模擬授業の準備や模擬授業実施の回には、指導案の作成や、指導案の工夫・改善を検討して修正案を作成すること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説家庭編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 小学校わたしたちの家庭科5・6，鳴海多恵子他，開隆堂出版，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、レポート・学習指導案の作成 25%、模擬授業の発表 20%、課題論述試験 25%
課題等に対するフィードバック	レポート・学習指導案の作成のフィードバックは次回以降の授業・オフィスアワーにコメント・返却する。 模擬授業の発表のフィードバックは授業内に口頭で行う。 課題論述試験のフィードバックはオフィスアワーに行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・教材作成に使用する文具等は各自用意すること。 ・教科書（小学校学習指導要領解説家庭編）の購入が困難な場合には、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」（文部科学省ホームページ）のPDFファイルを取得して、学修に活用すること。 https://www.mext.go.jp/content/20240918-mxt_kyoiku01-100002607_02.pdf
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②課題論述試験については、レポート課題に振り替え、レポート課題の評価を課題論述試験（25%）の評価に充てる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	音楽基礎
授業コード	BN103
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	石橋 裕子
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	◎ディプロマポリシーにある「教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案」するために、中学・高校等で教職経験のある石橋が、以下のような目的をもって授業を展開する。 1. 音楽を指導する上で必要な楽典を理解して指導できるよう、基礎的な知識や技能を修得することを目的とする。 2. 低学年の音楽の授業が行えるよう、歌唱共通教材を中心とした簡易な伴奏を用いて、ピアノで弾き歌えることを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	1.高等学校等で教育経験のある石橋が担当し、板書や課題提示の方法等を取り入れて授業を展開する。 2.開始・終了時には「号令係」が小学校と同様の号令をかけ、毎時間ルーブリック等を用いて授業を振り返る。 3.配慮の必要な児童への指導上の留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する。
到達目標	◎カリキュラムポリシーにある「各教科に関する基礎的な知識を学ぶ科目」として、以下の目標を設定して授業を展開する。 1 音楽を指導する上で必要な音楽理論を理解して楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現できることを目指す。 2 鍵盤楽器演奏経験に応じて、小学校歌唱教材を中心に、簡易な伴奏を用いて弾き歌えることを目指す。 3 子ども達に独唱や弾きうたいを聞かせることができるようになることを目指す。
計画・内容	第1回：本講義および第10回までの楽典ガイダンス、楽典①読譜に必要な知識の確認 第2回：楽典②五線・音名・階名・音符・休符 第3回：楽典③拍子・拍 第4回：楽典④いろいろな記号 第5回：楽典⑤長音階（長調） 第6回：楽典⑥短音階（短調） 第7回：楽典⑦変化記号、調の判定①（長調） 第8回：楽典⑧調の判定②（短調） 第9回：楽典⑨これまでの学修のポイント 第10回：楽典⑩楽典のまとめ、ピアノ弾き歌いガイダンス 第11回：ピアノ弾き歌い①1年生歌唱共通教材 第12回：ピアノ弾き歌い②2年生歌唱共通教材 第13回：ピアノ弾き歌い③3年生歌唱共通教材 第14回：ピアノ弾き歌い④弾き歌いのまとめ 第15回：ピアノ弾き歌い⑤ピアノ弾き歌い発表

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	1 楽典は教科書と練習問題が記載されたワークシートとを使用し、4人1チームでの学びを基本とする。 2. ピアノ弾き歌いは、毎時間選択した課題曲を練習して個人又はグループでのレッスンを 行い、自信を持って演奏できる曲目を増やす。 3.講義と演習とで授業を展開する
能動的な学びの実施	1.毎時間ループリックによる学修の振り返りを実施する。 2.楽典は、協同学習による4人1グループを基準としたチームで学ぶことを基本とする。
授業時間外の学修	1. 楽典は、予定された箇所の教科書を読むことを予習とし、本時で実施したワークシートを理解するまで 取り組むことを復習とする（合計40時間程度）。 2. ピアノ弾き歌いは、自身が選択した曲を練習する（合計20時間程度）。
教科書・参考書	教科書 「新 保育所・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」石橋裕子他 北大路書房 弾き歌いの教材は、レベルに合わせて指定する。 参考書 「最新 初等科音楽教育法 改訂版」初等科音楽委教育研究会 音楽之友社 「教師のためのピアノ伴奏法入門」鈴木 渉 東洋館出版社 「いろいろな伴奏形によるこどものうた85 1学期編」石橋裕子ほか 共同音楽出版社 「いろいろな伴奏形によるこどものうた85 2学期編」石橋裕子ほか 共同音楽出版社 「いろいろな伴奏形によるこどものうた85 3学期編」石橋裕子ほか 共同音楽出版社
成績評価方法と基準	楽典試験50%、ピアノ弾き歌い試験50%等を総合して評価する。
課題等に対するフィードバック	1. ループリックは毎時間回収し、コメントを記して翌週授業開始時に返却する。 2. ピアノ弾き歌いは、数分ずつ毎時間レッスンする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	1. 楽典は、教員採用試験の問題が解けるよう、また、低学年の音楽の授業を指導するため、繰り返して学ぶ必要がある。 2. ピアノによる弾き歌いは、地道な練習と努力が必要である。授業直前に数分練習するだけでは上達せず、単位取得にはつながらない。 3. 理由のない遅刻等は欠席扱いとする場合がある。 4. 本科目を履修しなければ、器楽、声楽、初等教科教育法（音楽）は履修できない場合がある。 5.小学校教諭一種免許必修科目である。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 学内インフラを使用した課題学修と、テレビ会議システムZOOM等での授業を展開する。 ②成績評価方法の規準 提出物30%、試験70%、等を総合して評価する。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	生活（小）
授業コード	BN274
英語名称	Living Environment Studies (Elementary Education)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	小学校における「生活」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、生活科に関連する背景的な知識を身に付ける。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「生活」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	カリキュラムポリシーにある「各教科に関する基礎的な知識を学ぶ科目」として、小学校における「生活」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。特に、小学校学習指導要領解説生活編に示されている内容の取扱いと指導上の配慮事項について具体例から学び、子どもたちが自立し生活を豊かにしていくための資質・能力をどのように育成するか理解する。
計画・内容	第1回 オリエンテーション、生活科の教育課程上の位置づけ 第2回 生活科の目標と内容構成 第3回 内容（１）学校と生活 第4回 内容（２）家庭と生活 第5回 内容（３）地域と生活 第6回 内容（４）公共物や公共施設の利用 第7回 内容（５）季節の変化と生活 第8回 内容（６）自然やものを使った遊び 第9回 内容（７）動植物の飼育・栽培 第10回 内容（８）生活や出来事の伝え合い 第11回 内容（９）自分の成長 第12回 内容の取扱い ー継続的な飼育・栽培ー 第13回 内容の取扱い ー中学年以降の教育への接続ー 第14回 内容の取扱い ー幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連ー 第15回 内容の取扱い ースタートカリキュラムの編成ー

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	講義、演習、実習を行う。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、習熟が必要な点をまとめたり、教材の体験をしたりすること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説生活編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 新編 新しい生活上・下，東京書籍，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、課題論述レポート 70%
課題等に対するフィードバック	課題のフィードバックは、次回以降の授業でコメント・返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。
留意事項	・体験活動時の服装や持ち物は各自用意すること。（詳細は、授業内で事前に連絡する。） ・教科書（小学校学習指導要領解説生活編）の購入が困難な場合には、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編」（文部科学省ホームページ）のPDFファイルを取得して、学修に活用すること。 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②体験活動については、家庭や地域等で行って成果の画像等をレポートで報告することとし、積極的な授業参加（30%）と課題論述レポート（70%）の評価の一部に充てる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	家庭（1組）
授業コード	BN277
英語名称	Home Economics
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付ける。
科目に関連する実務経 験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「家庭」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	カリキュラムポリシーにある「各教科に関する基礎的な知識を学ぶ科目」として、小学校における「家庭」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。特に、小学校学習指導要領解説家庭編に示されている内容の取扱いと指導上の配慮事項および実習の指導について具体例から学び、子どもたちが生活をよりよくしようと工夫する資質・能力をどのように育成するか理解する。
計画・内容	第1回 オリエンテーション、家庭科の目標と内容構成 第2回 空間軸・時間軸の視点からとらえる家庭科の学習対象 第3回 A「家族・家庭生活」の学習内容 ー自分の成長・家庭生活と家族の大切さー 第4回 B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 ー食事の役割ー 第5回 B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 ー調理の基礎・留意点と配慮点ー 第6回 B「衣食住の生活（食生活）」の実習 ーゆでる調理といためる調理ー 第7回 B「衣食住の生活（食生活）」の実習 ー米飯とみそ汁の調理ー 第8回 B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 ー栄養を考えた食事ー 第9回 B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 ー衣服の着用と手入れー 第10回 B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 ー布を用いた製作ー 第11回 B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 ー手縫いの技能・ミシン縫いとーの比較ー 第12回 B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 ーミシン縫いの技能・留意点と配慮点ー 第13回 B「衣食住の生活（住生活）」の学習内容 ー健康・快適・安全な住まい方の工夫ー 第14回 C「消費生活・環境」の学習内容 ー持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境ー

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第15回 A「家族・家庭生活」及びC「消費生活・環境」の学習内容 ー小・中学校の系統性ー
授業の進め方	講義（パワーポイントを使用）、演習、実習を行う。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、習熟が必要な点をまとめたり、技能の練習をしたりすること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説家庭編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 小学校わたしたちの家庭科5・6，鳴海多恵子他，開隆堂出版，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、調理および被服製作の技能 40%、課題論述レポート 30%
課題等に対するフィードバック	課題のフィードバックは、次回以降の授業でコメント・返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・実習時の持ち物は各自用意すること。 - 被服製作実習：裁縫用具、糸等の製作物に必要な材料 - 調理実習：エプロン、三角巾、マスク、手拭き用タオル、食器用ふきん ・教科書（小学校学習指導要領解説家庭編）の購入が困難な場合には、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」（文部科学省ホームページ）のPDFファイルを取得して、学修に活用すること。 https://www.mext.go.jp/content/20240918-mxt_kyoiku01-100002607_02.pdf
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②実習については、家庭等で行って成果の画像等をレポートで報告することとし、レポートの内容で技能（30%）の評価に充てる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（小）
授業コード	BN380
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	神谷 純子
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	特別活動は、学校教育における教育課程の一領域を構成する。子ども個々が実際の活動体験や生活経験を通して、「なすことによって学ぶ」ことを指導の基本理念としている。それゆえ、望ましい集団活動の実際を演習的に体験し、人間関係形成能力や自主性及び実践的な態度形成の力量を育み、学生自らが学べるような授業を構成することを目的とする。この考えを基本に、学校教育において子どもが身に付けたい自発的・自治的な力、社会の一員としての自覚と態度、自己指導能力などについての研究を深める。あわせて、学生自身の社会人基礎力や自己実現能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	学校教員としての実務経験を踏まえて講義内容及び方法に工夫を凝らし、教育現場に根差した知識技術の修得を図る。
到達目標	（１）特別活動の意義や目標の理解、特別活動の４つの内容の理解、実践事例等の分析と考察、学習指導案の作成（とくに学級活動）とその活用、などの理解を目標とする。 （２）教職にあって不可欠な子どもとのかかわりや学級をまとめる力量などを幅広く具体的に学ぶことを目標とする。 学科のカリキュラム・ポリシーとの関係では、「教職基礎科目」に分類され、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎的理解力を養成する科目に相当する。また、学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を修得することを目指す科目に相当する。
計画・内容	第１回：特別活動の目標と内容 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第２回：学級活動の内容(1)（評価・改善活動を含む） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第３回：学級活動の内容(2)(3) 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第４回：学校・学級における集団活動のポイント（内容，方法） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第５回：学級集団育成の技術 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第６回：特別活動における特別支援教育 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第７回：学校における実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第8回：特別活動の内容構成の理解 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第9回：単元計画の基本的な考え方及び学習状況の評価 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第10回：各内容の理解（児童会・生徒会活動） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第11回：各内容の理解（クラブ活動） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第12回：各内容の理解（学校行事） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第13回：実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第14回：特別活動と教育課程の編成・他の教育内容との関連 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第15回：指導計画の基本的な考え方・作成 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
授業の進め方	基本的に講義形式だが、随時演習等を行う。
能動的な学びの実施	随時演習等を行う。
授業時間外の学修	予習：参考図書等の目次に目を通す（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
教科書・参考書	基本的な参考文献： 文部科学省『小学校学習指導要領』 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 その他、適宜授業で紹介する。
成績評価方法と基準	（１）各々の担当者が以下の基準で素点を算出する。 授業内で課す小課題（60%）、最終課題（試験）（40%）の結果を総合的に判断する。 （２）各々の素点を授業担当回数の割合で比重付けして合算する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小課題については、随時フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	本科目は、教員免許状取得のための【必修科目】にあたる。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①非対面・オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。 Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URLを提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。 ②平時（対面授業時）に準ずる。